



第457号

2025年 7月

〒461-0004
名古屋市東区葵2丁目6-35
カトリック名古屋教区広報部
電話 (052) 935-2223
FAX (052) 935-2254
news@nagoya.catholic.jp
印刷所 株式会社 荒川印刷
毎月第1日曜日発行



2025年 通常聖年
希望の巡礼者となつて
聖年をともに歩みましょう

教区ホームページ

福音の
ひびき

7月の説教者

6日 年間第14主日
クマル・アファリ・アルン
(福井教会)

13日 年間第15主日
鄭 有喆
(小牧教会)

20日 年間第16主日
ソンボタン・カロール・ヨハネス
(福井地区)

27日 年間第17主日
九里 彰
(金沢教会)

能登半島地震被災地

カリタスのとサポートセンターの活動

第4フェーズの終了と

イースターボランティア

そして第5フェーズの始動！

第4フェーズ(2025年1月15日～4月13日)では、週末(金曜日～日曜日)限定だったボランティア受け入れ枠に平日枠を加え(水曜日～日曜日)、更に1泊～5泊の間の活動日や「日帰りも可」とすることで、個人の活動の幅をより自由に広げた。それにより教会奉仕等で足を運びづらかった信徒や司祭も、この第4フェーズ期間から多く参加してくださり、七尾教会での祈りやミサ、分かち合いもより豊かになった。

また第4フェーズのもう一つの醍醐味と言え

ば「シスターズリレーのシスター方が提供してくださる「手作り夕食」である。日中は汗を流し、夜はスタッフとボランティアが共に食卓を囲んで温かい夕食を食べる。

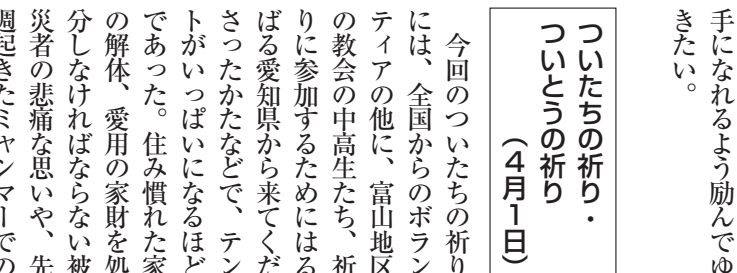


聖なる典礼に参加した。輪島の聖母幼稚園で行われた復活徹夜祭では、園児の可愛い椅子に腰を掛け、家庭的な雰囲気の中で、主の復活を喜び迎えることができた。ひと息つく間もなく、復活祭を終えた4月23日から第5フェーズが始まった。

七尾支援活動

○聖母幼稚園前じんのびカフェ (毎週日曜日) 毎日曜日、雨の日も風の日もじんのびカフェは開店する。熟年の常連さんが多い中、密に新しい訪問者も少しずつ増え、最近では子供連れの方も多く、生後間もない3カ月の赤ちゃんもいる。

○能登島向田第1団地 毎月第2土曜日は輪島のふれあいプラザ二勢、第3土曜日は能登島の向田第1仮設に出向き出張カフェを開催している。今月、施設の都合により二勢でのカフェ活動はなかったが、晴天に恵まれた19日、8名のボランティアと共に能登島の



またポイント交換者もいて、多くの方から寄贈いただいたプレゼントが入った包みを、楽しそうに選んでおられた。更に今回はマッサーの提供もあり、長年の疲れと仮設暮らしで凝り固まったカチコチの体をほぐしてもらいながら月に一度の楽しい時間を過ごされた。

○民間災害ボランティア センターおらっちゃ七尾での活動

4月もおらっちゃ七尾での活動に全国から多くのボランティアが集まっていた。七尾市でも公費解体の件数が増え、解体前の荷物の片付け、ゴミの分別や処理等に多くの人手を要していた。そんな中、特に最近需要が大

輪島支援活動

○重蔵神社物資配布支援

重蔵神社で毎土曜日に

行われる物資配布会にカ

リタスもボランティアで

参加し準備をお手伝いし

ている。配布会も無料か

ら300円となったが、以前

と変わらず400人前後の多

くの方々が午前中から

列を作り、午後3時の開

始前から配布会が始まる

のを待っており、震

災以後自身のところを

後回しにされて支援活動

をされていたが、境内の

整備を少しずつはじめ

ておられ、わたしたちも

建て直す拝殿周辺の整地

や、春を迎え温かくなつた

境内の草取りなどを週に

一度お手伝いしている。

「カリタスさんは仕事が

丁寧だから安心して仕事

をお任せできます」と、

喜んでいただいている。

○輪島市社協(災害ボラ

ンティア活動)

4月25日より、カリタ

スとして団体登録をし

て、初めて輪島市協災害

ボランティア(輪島ふれ

あいセンター主催)活動

に参加した。

初回の活動は仮設住宅

から市営住宅(みなし仮

設)への引っ越しの手伝

いで、大きなものは冷蔵

庫や洗濯機等、あとはわ

ずかな荷物の搬入だけで

作業はスムーズに進ん

だ。そこで出会った高齢

者が「住み慣れた家を離

れるのは悲しい。市営住

宅は町の中心にあり便利

だが仲間がいない」と

寂しそうに語っておられ

た。

仮設はいつか離れなけ

ればならない。住宅再建

の希望がなければ明るい

気持ちにもならない。コ

ミュニティの在り方や居

住問題など、被災地が直

面している課題の一つを

垣間見た気がした。今後

は、「訪れる人がほはい

ない真冬の山奥に、毎週

定期的に訪ねてくださる

ことが、どれほど心強

かったか分かります。」

と綴られていた。率直で

飾り気のない温かいお言

葉に、こちらの方が感動

した。

これからも被災地だけ

に留まらず、日常で出会

うすべての「いのち」を

大切に出来るような働き

きたい。

手になれるよう励んでゆ

きたい。

ついたちの祈り・

ついうの祈り

(4月1日)

今回のついたちの祈り

には、全国からのボラン

ティアの他に、富山地区

の教会の中高生たち、祈

りに参加するためには

ばる愛知県から来てくだ

さったかたなどで、テン

トがいつぱいになるほど

であった。住み慣れた家

の解体、愛用の家財を処

分しなければならぬ被災

者の悲痛な思いや、先

週起きたミヤンマーでの

大地震の犠牲者、被災者

の方たちのことも心にと

めながら祈りをささげ

た。

ミートンク

【第5回全国オンライン

報告会兼名古屋教区

サポートミーティング】

4月25日の19時半か

ら、第5回全国オンライ

ン報告会が実施され今回

も全国から、カリタスの

とサポートセンターの活

動に関わりある多くの

方々にご参加いただいた

た。七尾ベースからは、

当時ボランティア活動に

来ていた名古屋教区の信

徒2名の参加もあり、和

気あいあいとした雰囲気

の中、センター長の片岡

神父による被災地の現状や課題、そして前回からこれまでのボランティア活動報告に耳を傾けた。

また今回は七尾ベースの初期運営で活躍された初代ベース長の長井さんの参加もあり、約半年の間に大きく変化し発展したベースの活動内容や様子に、まだ結婚もしていない若さでありながら「まるで可愛いわが子の成長を見ているよう…」と感激に声を震わせていた。

有意義な意見交換が行われたが、遠方でも能登区にすでに送付されている。

正義と平和委員会学習会

「自由に平和を語ろう」

「自由に平和を語ろう」をテーマとする学習会が正義と平和委員会の主催で5月17日、布池教会地下ホールで開かれた。松浦悟郎司教を講師に迎え、戦争と平和などの社会問題について教会で自由に話し合うことが難しいのはなぜか、率直な意見交換をしようという28人が集まった。

まず司教から、自由に語り合うためのポイントとして、最近とくに懸念される問題が提起された。その話をヒントに5、6人のグループで話し合い、その内容を全体で共有し、さらに司教が答えるという形で進めた。司教の講話の概略は次の通りである。

教会で自由に話し合うためには福音的な方向に向かっているかどうかを判断の基準とする必要がある。福音的であるとして教会が大切にしていることは、①すべての人間を大切に（人間の尊厳を守る）ことと、②互いに愛し合う関係性（平和）を築くことである。

人間の尊厳について、例外なくすべての人

向かって歩んでいくかを考える。

何かを選ぶときには、どこに視点をおいて判断するかが問われる。大学進学を考えるとときには、貧しい人の喜ぶ道はどれかという視点で選ぶ。原爆に苦しむ人に視点を置けるため」という論理で原爆投下を容認することはできない。

「最低限度の防衛力は許される」という主張も同様だ。正当防衛とは、やむを得ない場合に限り力の行使が認められるわけだが、力を使わずに済むというわけではない。行使しない選択肢もある。防衛戦力の保持は当然ではない、というのが大前提である。

ただし、教会が社会にメッセージを発すると、き、すべて（の人）を否定しているわけではない。日本の司教団は原発の廃止を訴えているが、原発で働く人々を否定してはいない。ただ、原発はなくした方がよいのだと意識をもって働いてほしいということだ。

次に、昨今懸念される日本の安全保障について話された。

北朝鮮のミサイル実験の問題にせよ、中国の軍事大国化の問題にせよ、あまりに「あおられている」印象がある。抑止力の必要が叫ばれているが、じつは一番心配しているのは北朝鮮の方だ。朝鮮戦争は休戦状態であって終結はしていない。韓国軍と米軍および自衛隊に取り囲まれ、目

の前で演習などされて、北朝鮮こそ恐怖の中にあり、核兵器の抑止力に頼ろうとしている。

中国は日本を攻めたいなどと考えてもいない。しかし、日本は台湾防衛のために沖縄および南西諸島の基地化を進めている。日本は集団的自衛権を認めたので、有事には米軍を助ける義務がある。主戦場は台湾と日本である。中国本土も米軍本土も主戦場にはならない。集団的自衛権を認めてしまったために日本は攻撃対象となる。いざというときに米軍は手を引く可能性もある。米軍には台湾防衛の義務はない。

一方、日米同盟を断れば日本は平和の仲介者となることができる。以前の日本は平和国家として世界の信頼を得ていた。だが今や中東諸国などの信頼は失われつつある。軍拡競争は必ずどこかで世界大戦につながる。日本とオーストラリアの平和学者はその共同研究で世界平和実現の有効な手立てとして、日本の憲法の共有を提案している。

軍事力強化に向かっている日本だが、攻められたいときに限って応じるという縛りを持つ軍事力として現状を容認し、個別の自衛権の範囲にとどめ、浮いた軍事費を世界の貧困対策や人権救済のために使うべきだ。

司教の講話をヒントに、参加者と司教はさらに議論を深めていった。

2025年度 正義と平和委員会学習会お知らせ 第2回「ウクライナ問題」

日時 2025年7月15日（火）
午前10時30分～12時00分

会場 福信館2階
（名古屋市東区葵2-6-29、布池教会東）

アクセス 地下鉄東山線新栄駅から徒歩8分、桜通線車道駅から徒歩8分、JR 中央本線千種駅から徒歩9分

講師 浅野幸治（正平委員、豊田工業大学特任准教授）

2022年2月24日にロシア軍がウクライナに侵攻し、それ以来両国は戦争状態にあります。今のところ停戦の見通しも明るくありません。一体どうしてこうなってしまったのでしょうか。

戦争の原因を探るには、過去の出来事に眼を向ける必要があります。ここでは、ウクライナの内政問題に焦点をあてて、考えてみたいと思います。

*誰でも参加できます。自由にご来場ください。

主催 カトリック名古屋教区正義と平和委員会

連絡先 浅野幸治 asano@toyota-ti.ac.jp または 090-8860-3627

カトリック信徒の「御言葉の分かち合い」チャンネル ～小教区での実践をざして～

「今日の私」に語りかける主の御言葉を聞き、その分かち合いをすることは、信徒同士の信仰を深め、育てあう力になります。その一例として、ぜひご覧ください！

番組QR



連絡先 多田めぐみ 08074479062
Eメール yamanomoricecilia@gmail.com



その中で、「もっと知る努力が必要だ」「祈りと行動を大切にしたい」「こうした学びと話し合いの機会を定期的に持ちたい」「一人でも勇気をもって声をあげることが大事だ」などの意見が交わされた。

（正義と平和委員会・
早川努神父）

インターナショナルミサ

「みんなで希望の錨につながるろう」

インターナショナルミサが、5月11日（日）「みんなで希望の錨につながるろう」をテーマに、難民移住移動者委員会主催によりカトリック城北橋教会において開催された。

老若男女270名ほどの参加があり、教会学校教師会との共催ということでも、子どもや、ベトナムなど外国籍の青年の参加も多く、多くの国の人々が心を一つにした活気あるミサとなった。

奉納ではミサ前のワークシヨップで作った錨のオブジェにメッセージを書いたもの、マリア様への感謝の気持ちを含めたロザリオ、より良い未来のシンボルとしてのアーティファクトが奉げられた。

共同祈願では、英語、ポルトガル語、ベトナム語、日本語など多言語による祈りがささげられた。

松浦悟郎司教はミサの説教で、新しい教皇について触れ、壁を作るのではなく、各々が生きている中で橋を作っていくってほしいと話した。

また、聖年のテーマ「希望の巡礼者」に因んで、ロゴマークの中心に錨がある。キリストの十字架架という錨につながっている、社会の荒波を受けながらも救ってくださるとわかりやすく説明された。

ミサに引き続き、料理の料理持寄りによる食事会にも大多数の方が参加され、8つあるテーブルは話が大きいに盛り上がり、

子どもたちが多いテーブルでは持ち寄った多国籍の料理が瞬く間に無くなった。

また、布池・聖心・刈谷の子どもたちが、Anchor of HopeがデザインされたTシャツを着て「One Way, Jesus!」というダンスを踊って場を盛り上げてくれた。

百聞は一見に如かず、自分の教会のミサに浸りきっている皆様、ぜひ一度このようなミサを体験して、自分の教会のミサに反映されては如何だろうか。

ミサ献金16,063円は、名古屋教区「カリタスのとサポートセンター」に寄付した。（難民移住移動者委員会）



「福者ユスト高山右近殉教者が米国の映画に」

「EWTNを通じて世界160カ国に配信も」

米国の映画会社が、福者ユスト高山右近殉教者の金沢での足跡や茶の湯などをテーマにしたドキュメンタリー映画制作を進めている。5月3日、監督らスタッフがカトリック金沢教会を訪れ、聖堂で行われた講演会を撮影した。

制作スタッフは監督のショーン・スキアボリンさんら3人で、高山右近研究家であるスムットニー・祐美さん(関東学院大講師)の講演「高山右近、金沢での歩みと茶の湯」をカメラに収めた。映画は完成後、現在開催中の大阪・関西万博で上映されるほか、米国のカトリック教会系列のケーブルテレビ、エターナル・ワールド・

テレビジョン・ネットワーク(EWTN)を通じて世界160カ国に配信される計画となっている。スキアボリンさんは高山右近を「侍の聖人」ととらえ、映画は右近の足跡をアニメーションで紹介し、日本の研究者、武道家らのインタビューなどで構成されるという。スキアボリンさんは、この日、撮影の様子取材した北國新聞のインタビュアーに「高山右近が日本を代表するヒーローであることを伝えたい」と語った。



映画制作について語る監督のショーン・スキアボリンさん(中央) 右はスムットニー・祐美さん、左は九里彰神父＝カトリック金沢教会

2025聖年公式マスコット 「ルーチェと仲間たち」

今年の通常聖年にはマスコットがあることを「ルーチェ」は今年開催される「大阪・関西万博」のパカカン館の公式マスコットでもある。現代ポップアートとストリートカルチャーの世界で高い評価を受けているイタリア人アーティスト、シモーネ・

レニョ氏は10代のころから日本のアニメや漫画文化に傾倒し、独学で日本のポップカルチャーを研究したそうである。このキャラクターデザインにもその影響が色濃く出ていることがうかがえる。

イラストを見るとわかると思うが、「ルーチェ」とその仲間たちのデザインには、鳩、天使、犬が期待されているとのことである。



ワールドユースデー in Nagoya ~ WYD の十字架とアイコンを囲んで ~



GW最終日の5月6日午前10時、約180人が集まったこのイベントは、まず松浦悟郎司教の提案で各国の挨拶から始まった。WYD(ワールドユースデー)にて使用されている十字架とアイコンが韓国から来日し、名古屋教区の青年たちによって、布池教会のホールに運び込まれた。実際に触れたり膝をついて静かに祈ったりした。中には触れた途端に涙する人もいた。

その後、異文化の理解と交流のため、各国の歌やダンスを通じて一つになるフェスを行った。昼食のあと聖堂にて十字架の道行きを行う前に、2013年に開催されたリオデジャネイロ大会の参加者から、体験談をみんなに伝えたいと言われ、急遽話を聞くことになった。司会だった私は、予定にない進行に時間が気になった。しかし体験談を聞き、こんな近くに十字架とアイコンがあることも、触れられることも、とても貴重な経験なのだと知り、今回のイベントのお手伝いができたことを誇りに思い、ミサ後の写真撮影では晴れやかな気持ちでイベントを終えた。

最後に、今回、ミサや十字架の道行きの文章を電子化した。紙に印刷したQRコードをスマホで読み取り、デジタルで見られる形式にしたのである。普段はありえないが聖堂内で全員がスマホを常に見ていた。教会の中では忙しない日常から離れ、心を落ち着かせる場だと考えている私にとってはとても違和感があったが、デジタル化する昨今、新しい教会のあり方なのかもしれないと感じた。また、スマホを持たない人や使い慣れていない人に対して、個別に対応を行う場面が多々あった。やはり最低限紙媒体の案内が必要だったのではないかとも思った。

名古屋教区カトリック女性の会 「樹の会」第18回総会

5月17日(土) 2025年度の総会と講演会を膳棚教会で開催した。総合司会を松坂幸幸(東山)、議長村上かつ(瀬戸)、書記磯部紀子(膳棚)を選出して会は進行した。2024年度の活動報告・決算報告は拍手をもって承認され、今年度の活動計画案・予算案も無事に承認された。今年度は役員交代があり、会長 千村かつ子(東山)、副会長 中島真理(布池)、副会長(書記兼任) 加藤孝子(多治見)、会計 浅井奈緒美(南山) が承認され新年度がスタートした。

「樹の会」はまずミサに与り、その後当番制で霊的分かち合いを行い、続いて支援活動をしている児童養護施設「麦の穂学園」、福音館炊き出し、DVサポート「かけこみ女性センターあいち」、岐阜ダルク女性ハウス、船員支援「ステラマリス」、世界祈祷日の担当、円ブリオ支援、日本カトリック女性団体連盟(日カ連)に対して、月例会で報告と審議を行いつつ、議事録を作成し、例会出席者のみならず全会員に配布して周知を図っている。

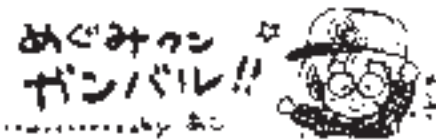
前年度は特に船員支援ステラマリスのロゴマーク変更に伴って、会員数名で新マークを刺繍したストラップ7枚を作製した。これは、日本に7カ所あるステラマリスの拠点の司教方が使用される。また3月7日の世界祈祷日は、カトリックが当番で、布池教会に153名が集い、祈りと献金で支えることが出来たと前会長の金森タイが挨拶した。

引き続き行われた講演会は、岐阜ダルク施設長の遠山香氏による「生きづらさと依存症」のテーマで実体験を交えた話を聞くことが出来た。薬物依存ほか様々なルール違反を繰り返していたが、ダルクと出合い回復が始まり、現在は依存症者の自立をサポートしていると話した。両親との関わりでは父親には愛されていたが母の愛情がもつと欲しかった。高校入学の時は勉強して入学したが、先生に呼び出されるのがうれしかったので、呼び出されたいがためにわざと悪いことをしたこともあった。図書館や学校訪問をする機会があった。そこで聖書と出会い、神父との出会いがあった。洗礼を受けた。現在はプログラムを積み重ね、祈る依存症者のサポートをして日々新しい試みに挑戦している。



「樹の会」ご案内 『ミサと例会』毎月第2火曜日午前9:30～ カトリック膳棚教会にて 『入会』ご希望の方は事務局まで 電話:090-1757-3507 FAX:052-774-2165(千村) 文責 千村かつ子

20数名の参加者の会であつたが、総会も講演会も和気あいあいアツという間の時間だった。(写真提供加藤孝子)



炎も瓦礫も黒煙も
神を讃えよ
血も涙も悲鳴も
神を讃えよ
ムリヤリにでも
神を讃えてない
絶望してしまいたい
そんな弱さも
とにかく
何がなんでも
神を讃えよ

そして
国籍人種宗教に
関係なく
平和を求める声は
必ず必ず必ず
聞き入れられる
ことを信じて
神を賛美しよう

人間の知恵が
人間の愚かさに優る
ことを信じて
善悪の人々と共に
神を賛美しよう

罪のない
全ての人々に
一刻も早く
それぞれの神の
祝福と平和が
実現されます
ように！

8月の主な教会暦（主日・祭日など）

3日(日)	年間第18主日
6日(水)	主の変容（祝）
10日(日)	日本カトリック平和旬間（～15日金）
15日(金）	年間第19主日
17日(日)	聖母マリアの被昇天（祭）
24日(日)	年間第20主日
31日(日)	年間第21主日
	年間第22主日

（祭）＝祭日、（祝）＝祝日、（記）＝記念日

7月の教会暦

1日(火)	福者ペトロ岐部司祭と187殉教者（記）
3日(木)	聖トマス使徒（祝）
6日(日)	年間第14主日
11日(金)	聖ベネディクト修道院長（記）
13日(日)	年間第15主日
15日(火)	聖ボナヴェントゥラ司教教会博士（記）
20日(日)	年間第16主日
22日(火)	聖マリア（マグダラの）（祝）
25日(金)	聖ヤコブ使徒（祝）
26日(土)	聖母マリアの両親 聖ヨアキムと聖アンナ（記）
27日(日)	年間第17主日
29日(火)	聖マルタ 聖マリア 聖ラザロ（記）
31日(木)	聖イグナツィオ・デ・ロヨラ司祭（記）

7月

5日(土) カトリック看護協会例会

8日(火) 難民移住移動者委員会／樹の会／のと視察＊

9日(水) のとサポーターセンター運営委員会＊

10日(木) 顧問会＊

12日(土) 典礼委員会コアミーティング／殉教者委定例会／信徒協役員会

13日(日) 城東B会議／三河B会議・司祭会議

17日(木) 月集＊

19日(土) レジオ・マリエ「名古屋クリア」

20日(日) 城北B会議／城南B会議

27日(日) 長浦教会堅信式＊

8月

7日(木) 顧問会＊

9日(土) 典礼委員会コアミーティング／殉教者委定例会／信徒協役員会

10日(日) 教区平和の集いとミサ＊

11日(月) 祝北陸ブロック平和の集いとミサ＊

31日(日) 一粒会の集い（北陸地区・小矢部教会）＊

7月

3日(木) 常任司教委員会 会議

教区行事以外の松浦司教予定

681件 38,036,661円
目標額 40,000,000円 (2025年5月末日現在)

建設費の返済に協力を

達成率 約95.1%

郵便振替 00810-5-50605
加入者名 カトリック名古屋教区
通信欄に「福音館建設」と必ずご記入ください。



告知板

◇7月の炊き出し

木3日布池、10日ひまわりの会・南山・樹の会、17日聖霊・南山・樹の会、24日城北橋、31日東山

金4日喜望の会、11日布池、18日恵方町、25日長浦

5日(火)～6日(水) 平和行事（広島）

8日(金)～9日(土) 平和行事（長崎）

〈カルメル修道会日比野修道院、講座、黙想企画〉 【旧約聖書から学ぶキリスト教霊性】 —キリストの十字架の恵みをより味わうために—

日 時 2025年7月19日(土) 14:30～16:30

テーマ 申命記の全体構造とメッセージ

持ち物 必ず聖書（旧約＋新約）をご持参ください。

場 所 カルメル会日比野修道院（日比野教会）

参加費無料

どなたでもご自由にご参加ください。

担 当 志村武神父（カルメル修道会）

問合せ 日比野修道院（052-671-1003）

以降の予定 9月20日(土)、10月11日(土)
11月15日(土)

名古屋教区 平和祈願ミサ2025 「いのちを守る 平和を築く」

8月10日(日)
名古屋カテドラルカトリック布池教会

13:00 受付

13:30 第1部 平和を考える集い
（会場：大聖堂地下ホール）

・DVD鑑賞：ドキュメンタリー「にんげんをかえせ」

・おはなし：被爆二世の語り部 太田智恵子さん
（瀬戸教会・被団協愛友会 瀬戸支部代表）

15:00 第2部 平和祈願ミサ
主司式 松浦悟郎司教・司祭団

8月11日(月・祝)
カトリック福井教会

10:00 DVD鑑賞：ドキュメンタリー
「にんげんをかえせ」

10:30 平和祈願ミサ
主司式 松浦悟郎司教・北陸ブロック司祭団

問い合わせ先 名古屋教区社会福音化推進部
TEL 052-935-7180

在俗奉獻をご存じですか？

～聖マリア在俗会の紹介～

多様な社会の中で信徒として自立し、神への奉獻と使徒職に生きる道、在俗奉獻生活という生き方をご存じですか？
この度説明会をいたしますので、どうぞお越しください。

日 時 2025年9月23日(火 祝日) 10:30～14:30

場 所 聖マリア在俗会 会議室
〒466-0835 名古屋市昭和区南山町6-1

内 容 在俗会についての説明、分かち合い

対 象 女性信徒及び求道者

会 費 1,000円（昼食代として 当日徴収します。）

申込み締切 9月14日(日)

申込み・問合せ 聖マリア在俗会本部 電話 (052) 831-6869
e-mail: se-maria@crest.ocn.ne.jp
http://www.maria-secular.jp

名古屋教区平和旬間（8月6日～8月15日） 広島・長崎・終戦 80年目の回想

第17回平和祈念の集い

日 時 2025年8月3日(日) 午後13時～15時30分

場 所 カトリック南山教会 マリア館ホール2階
（名古屋市昭和区南山町1
地下鉄鶴舞線 いりなか駅下車 徒歩5分）

テーマ 「平和をつなぐ」—9条を抱きしめて—

プログラム

- ・聖書朗読
- ・映画 「—9条を抱きしめて—元米軍海兵隊員アレン・ネルソンが語る戦争と平和」
- ・松浦悟郎司教と共に
- ・合唱 南山教会聖歌隊
- ・共同祈願
- ・平和を求める祈り 手話による「キリストの平和」他
- ・派遣の祝福
- ・聖歌「みははマリア」とオルガン演奏

主 催 カトリック南山教会信徒
名古屋友の会会員有志 ピース9の会

共 催 南山教会社会委員会

連絡先 080-3066-3433 井爪 光子

教区の炊き出し活動の今後

名古屋教区には、相馬司教の時代から「炊き出しの会」があり、長年、多くの方の支援に支えられ、活動が継続してきた。昨年、活動の責任者だった竹谷基神父の帰天を機に、今後の活動継続についての話し合いが関係者の間で行われ、以下の決定がなされた。

1. 炊き出し活動（野宿者支援）への募金は下記へ；
郵便振替 00830-4-153862 ささしま共生会
2. 「ささしま共生会」代表は、末竹十大牧師（ルーテル教会）である。
3. 福音館1階事務室・厨房・車2台は「ささしま共生会」に無償で貸与。事務所には「共生会」スタッフが常駐。炊き出しのための問い合わせ、物資支援の受付も行う。
Tel: 080-4960-0516, Mail: s-npo@giga.ocn.ne.jp
4. カトリックとしては、これまで通り「ささしま共生会」の一員として「木曜日炊き出し活動」を行う。
5. 福音館2階は教区社会福音化推進部事務局として使用する。連絡先は教区事務所
Tel: 052-935-2223

エンカウンター 連続ワークショップ

開 催 日 7月12日(土)

会 場 名古屋教区 みこころセンター

時 間 13時～16時（休憩含む）

対象年齢 20歳代～60歳代

受付方法 事前に申し込みが必要です。

参加費用 自由献金

プログラム

1. 人間関係と社会的サポート
2. 親と子のコミュニケーションスキル
効果的に子どもの話を聞き、気持ちを理解し、関係を深める方法。

申し込み・お問い合わせ
Sr. 速水智恵美 聖霊会
Tel 052-832-0434・fax 052-832-7556
Sr. 谷口 涼子 純心聖母会
Tel・fax 052-756-4077
主 催 名古屋教区 女子修道会 在俗会連盟